北海道産アマノリの生活史に関する研究

第 III 報 スサビノリ *Porphyra yezoensis* UEDA の研究 (其の 3)

スサビノリの夏芽の養殖⁽¹⁾

木下 虎一郎

(北海道水産試験場)

Notes on the Life-history of *Porphyra* of Hokkaido.

Report III. Notes on *Porphyra yezoensis* UEDA (No. 3) On the Cultivation of the Summer Plantlets of *Porphyra yezoensis* UEDA.

Toraitiro KINOSITA

SYNOPSIS

Having ascertained the fact that summer plantlets are consistently produced in the life cycle of *Porphyra yezoensis* and that growth of such plantlets is dependent upon the environmental conditions, especially upon the temperature of water, the writer formed an intention to transplant into cooler regions for cultivation the summer plantlets collected in summer, by means of which to attain more or less pronounced acceleration of the yield on the industrial scale.

The idea was put into practice in preparing a set of palm-nets to collect the summer plantlets of this alga on Aug., 25th, 1942 at the Bay Usu, Province of Iburi, Hokkaido, and in transporting the nets on Sept., 17th, of the same year to Lake Saroma, Province of Kitami, Hokkaido where the water temperature was lower than that of the former locality.

Actual result of this trial was entirely favourable for the writer's anticipation, which appears to afford a definite ground for the possibility of the industrial enterprise of this method.

著者等の研究^{(2), (3)}の如く、スサビノリ *Porphyra yezoensis* UEDA に於ては「夏海苔」の存在は既に確定的で、且つ、それは外圍條件（主として温度）の如何によつてその成育が制約せられるものゝ様であるから、之を産業上に應用して、夏期採苗した夏芽を寒地に移して養殖し、早期の中に收穫を擧げんと計つたのが本試験である。

先づ、夏芽の採苗は北海道膽振國有珠灣に於て、昭和 17 年 8 月 25 日、椰網（幅子 0.91 m、長さ 45.5 m、網目 0.3 m）を常法によつて建込んで行つた。9 月 14 日にはこの網に 1 mm 内外の無数の幼芽を認めるに至つたので、之を取揚げ客車便扱を以て北見國佐呂湖湖牡蠣島に輸送して 9 月 17 日同地に建込を了し養殖に着手した。

移殖地として佐呂湖湖を選んだ所以は、從來の我々の調査では湖内に *Porphyra* の存在を認めなかつた點から、この移殖芽の純粹を保てて觀察に便利であると考へたのと、今一つは

(1) 北海道水産試験場養殖部業績

(2) 木下・澁谷：北海道産アマノリの生活史に関する研究 (I) 日本水産學會誌 9 (6), 昭和 16.

(3) ————：北海道産アマノリの生活史に関する研究 (II) 日本水産學會誌 11 (2), 昭和 17.

第 1 圖

- (1) 佐呂澗湖に於ける夏芽の成育状況
 (昭和 17 年 8 月 25 日有珠灣に於て採苗施設
 " 9 月 17 日佐呂澗湖へ移殖
 " 11 月 7 日撮影)
- (2) 同上の一部擴大
- (3) 同上の植物體

水温が、曩に木下、中島⁽⁴⁾が報告した如く、本湖では最高水温を現す 8 月でも 20°C 以上に上昇する日は幾日もなく、9 月に入ると低下し、10 月以降は急降期となるのであるから、著者等の観察^{(2),(3)}の様には夏芽の成育が主として、外圍の水温状態に制約せられるものであるとするならば、こゝに移殖することによつて産業的に夏芽を早期の中に育て上げられると考へたのである。扱て、移殖の結果は豫期の如く順調の成育を示し、11 月 7 日、第 1 回摘採を行つて 1 網(幅 0.91 m、長さ 45.5 m)から生海苔 62.4 kg (16 貫 650 匁)を得た。當時の寫眞が(1)、(2)、(3)で、この生海苔は當時、時期外れの初海苔の故を以て 1 貫匁 8 圓の割に賣却されたのである。更に 12 月 1 日、第 2 回摘採を行つて 37.1 kg. (9 貫 720 匁)の收納があつた。あと、恐らく本湖の結氷期(12 月中下旬)迄には尙 1 回の採取は可能と見込まれる。

(4) 木下・中島：北海道佐呂澗湖に於ける水温、比重の観測結果に就て。陸水學雜誌 8 (3, 4), 昭和 13.

以上の結果は著者等のいふスサビノリの夏芽の性状を産業的に證明し得たと信ずるものであつて、而も、この夏芽の養殖は事業として成立可能なりと認めるものである。即ち、前記、生海苔の賣却値段は論外

第 1 表

月 別	旬 別	採 有 苗 珠 地 灣	移 殖 地 佐 呂 澗 湖
8 月	上	24.0°C	20.3°C
	中	23.2	20.0
	下	21.8	19.2
9 月	上	21.2	18.6
	中	20.1	16.9
	下	18.9	16.8
10 月	上	17.0	13.8
	中	14.6	12.2
	下	14.2	9.3
11 月	上	9.6	8.5
	中	7.2	4.1
	下	5.5	4.3

とするも、抄海苔としても、第1回摘採分に於て生 100 匁より 14.5 枚の優秀なる抄製品（小版、縦 22 cm, 横 22 cm）を得られたのであるから、假に全期を通して 20 貫の生海苔を收納出来るならば十分採算とつて餘りあるものと信ずるものであり、北海道には養殖可能と認められ鹹水湖だけで約 1 億萬坪餘に上るのである。

因に、本試験の採苗地有珠灣と移植地佐呂澗湖の試験當時の水溫を附記して參考とする（第 1 表）。